

まちづくり市民フォーラム～まちの拠点作りにつながる『これからの社会教育施設』レポート

開催日時：21年8月1日（日）午後1時半～3時半

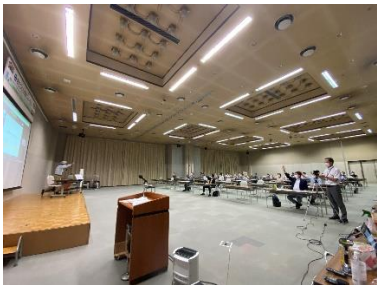
会場：オンライン開催＋ハイブリット開催

参加者：164人（オンライン視聴121人、会場43人）

目的：蒲郡市では、図書館や市民会館をはじめ、生命の海科学館、博物館を含む4つの社会教育施設の、各施設の将来ビジョンの策定を進めています。これからの社会教育施設をはじめとする公共施設は、各施設の機能だけでなく、「市民の交流拠点」や「まちの居場所」をも担うことが求められており、より魅力ある社会教育施設に向けた、市民の皆様と一緒に考えていくキックオフイベントとして、まちづくり市民フォーラムを開催しました。

1. 基調講演「“公共空間”が核となるまちづくり」

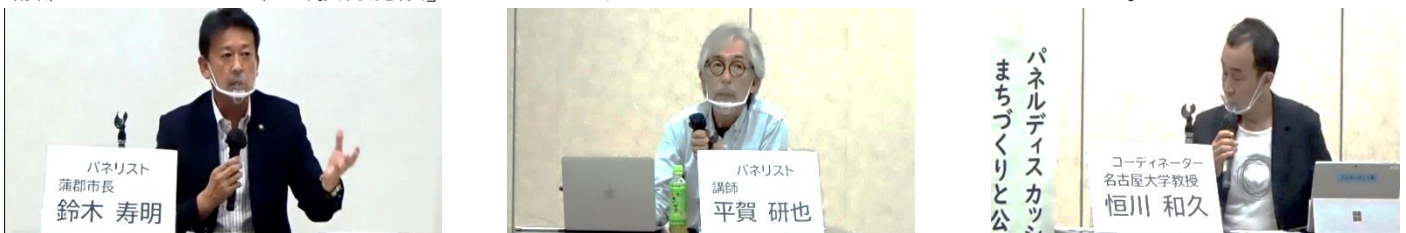
平賀研也氏（たきびや／前・県立長野図書館 館長）



伊那市立図書館、長野県立図書館の館長としての経験をお話いただきました。本を借りるだけではない図書館の可能性を伝えていただきました。「学び」が変わっていく中で、図書館は情報が集まるところであり、多様なコミュニティが「共に知り、共に創る知の共有知（コモンズ）がコミュニティになる」というまちづくりの役割を伝えていただきました。最後にそういった新しいパブリックをつくっていくのは、蒲郡の皆さん自信が「わたしたちの”公共空間”として考え続けることが大事という呼びかけをしていただきました。

2. パネルディスカッション

鈴木寿明氏（蒲郡市市長）、平賀研也氏、コーディネーターとして恒川和久氏（名古屋大学教授）の三者により、蒲郡の「これからの社会教育施設」についてパネルディスカッションしていただきました。



まちづくり市民フォーラム
～まちの拠点づくりに繋がる『これからの社会教育施設』～

令和3年
8月1日
13:30～15:30

基調講演
“公共空間”が核となるまちづくり
平賀 研也 氏（たきびや／前・県立長野図書館 館長）

共に知り、共に創る
矢の共有矢口(コモンズ)が
コミュニティになる

〇図書館として実践してきた外
屋根のない博物館＝地域全体
屋根のある広場

大きく広がる図書館の
可能性
“本と借りる”だけじゃない
例) AR技術で
30冊程の書籍

どう変わるか? どう実現する?
自分事
それは蒲郡のみならず
考えつくり、倉りつづける

パネルディスカッション
まちづくりと公共施設
コーディネーター
恒川 和久 (名古屋大学 教授)

“わたしたちの”
公共空間
タテマキなコミュニティ
まちをつくる
楽しいパブリック

鈴木寿明 (蒲郡市長)
会場: 当事者意識を
育くむポイント

身近な問いを立てる。“私の好き”“私の思い”
歴史より、自分のおぼあちの思い構
など。

組織だけじゃなく、
新しいなまりをつくっていく
しくみも大事

蒲郡の公共施設
取組の考え方
投資 保有量

● 景観光も、暮らし大事、利便性
● 東港の可能性、
海風にあたりながら
心地の良い居場所へ

● ロケ地
映画撮影?
誇りに

● 居心地の良い
ここの大事

● 8万人超の
80の食館

● 色合い
豊富な
貴重な財産
組織名だけじゃ
場としての強み
↓
パブリックライフを
支える“居場所”へ
↓
● ハードあり
どはばく、
利便性が
アイデアを
かわるじく

水参考にする事例を見に行こう

2011 森だいまメディアテーク 従来方式

2010 えんぱーく (塩浜市民交流センター) 従来方式

2011 筑風野プレイス 従来方式/指定管理

2012 オガル (築波中央駅前都市整備部) PPP

2021 アンフォーレ (伊弉布中心市街地拠点施設) PFI/直営+民間

リノベーション

2021 牧之原市立図書館
ホームセンターとの協働(協働型)

公園PFI

2021 かがみほるパークプレイス(有料民間施設)

書記: 伊原 悠